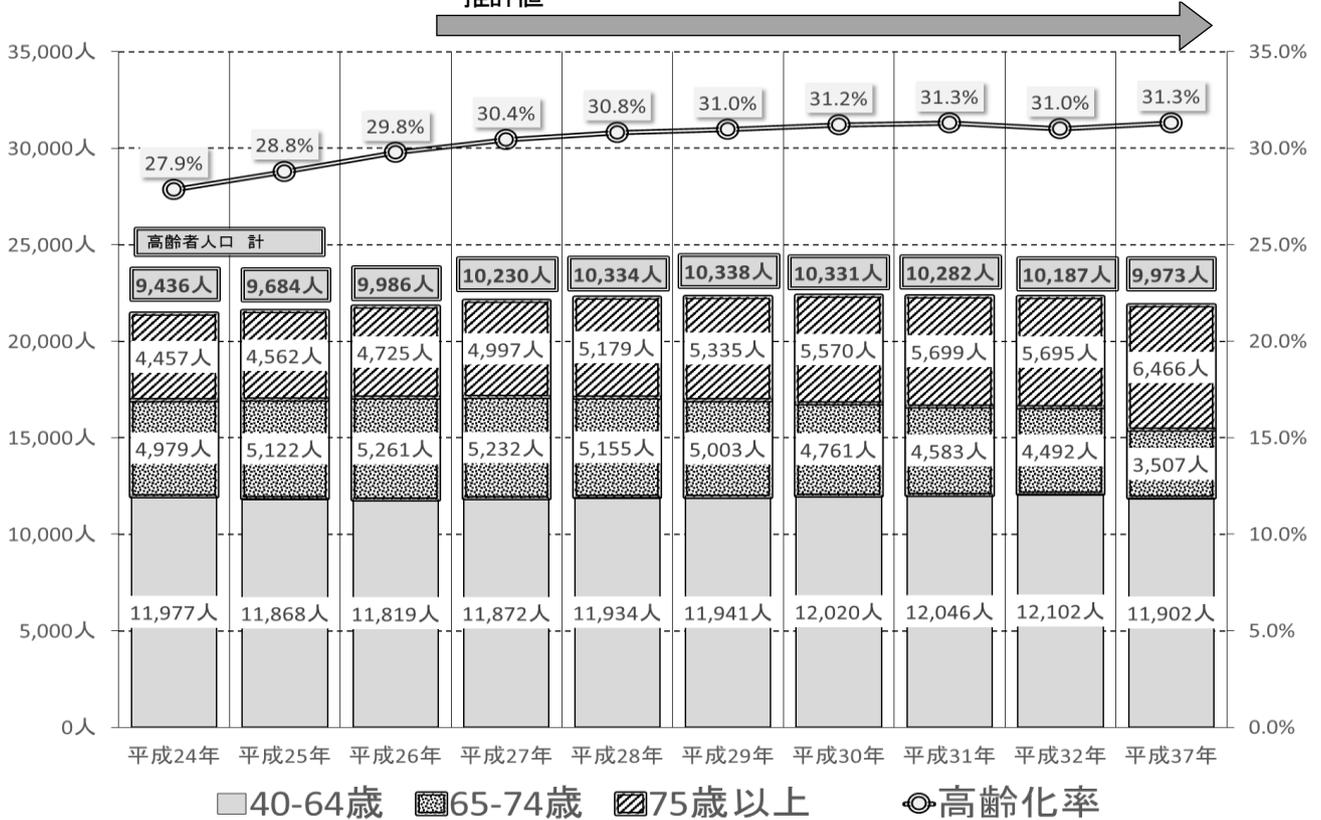


Ⅱ 現状と課題

1 人口推計と社会資源

(1) 高齢者人口等の推移及び推計
推計値

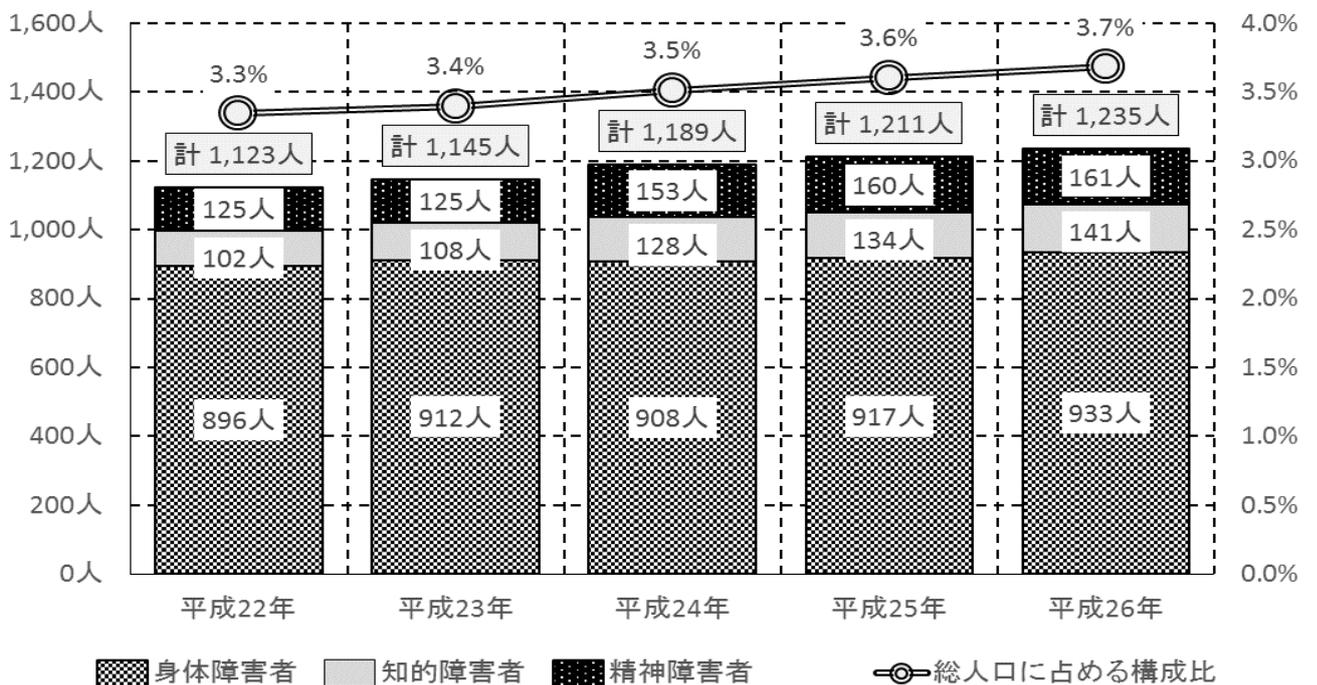
各年10月1日付



出典：第6期 葉山町高齢者福祉計画 介護保険事業計画

(2) 障害者数の推移

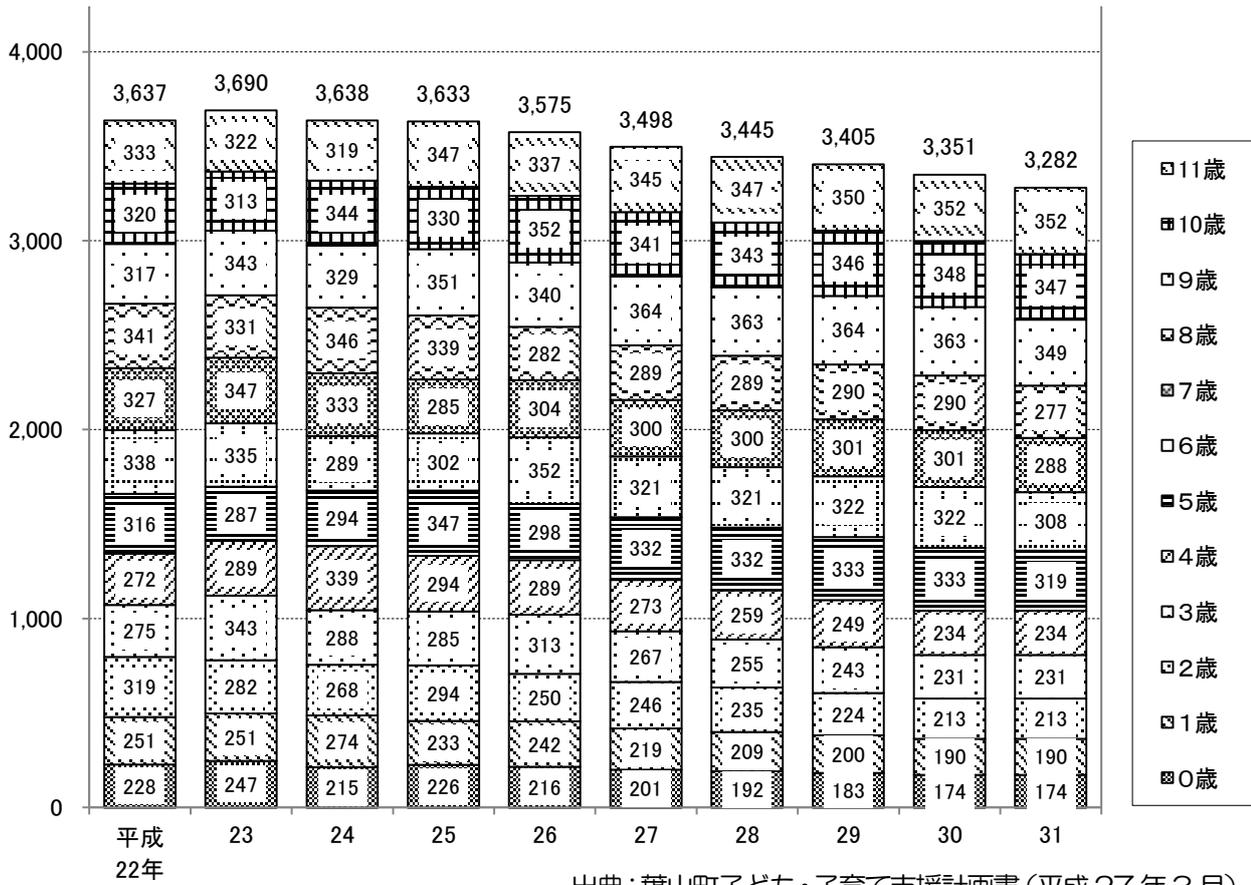
各年4月1日付



出典：葉山町障害者福祉計画（平成27年3月）

(3) 子どもの人口の推移

各年4月1日付



出典：葉山町子ども・子育て支援計画書（平成27年3月）

(4) 小地域福祉活動推進組織の状況

各年10月1日付

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
推進組織設置数	5地区	5地区	6地区	6地区	6地区
内個別支援活動実施組織数	3地区	3地区	4地区	4地区	4地区

(5) ふれあいいいきサロン・生きがいミニデイサービス実施団体数

各年10月1日付

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
27団体	30団体	30団体	33団体	35団体

(6) ボランティア・市民活動団体登録数

各年10月1日付

平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
52団体	58団体	51団体	49団体	45団体

(葉山町社会福祉協議会はやま住民福祉センターに登録している団体数)

2 葉山町における地域の福祉課題～ヒアリングより～

平成 28 年 3 月に延べ 43 の各種福祉関係者・団体・専門機関等の参加を得て 4 回開催したヒアリングの結果を要約し、まとめたものが以下の地域の福祉課題です。

(1)～(3)の課題については、本計画書「V 地域の福祉課題の解決に向けた取り組み」に沿ってその解決に向けて取り組むこととし、(4)の課題については、「VI 地域福祉のネットワークづくりに向けた取り組み」に沿って基盤整備などを進めます。

(1) つながるための場づくり

① ミニデイサービスやサロン活動の参加者は元気な高齢者が多く、日頃の交流が希薄化・孤立化する住民の参加が少ない状況です。移動手段の確保が難しいなど、高齢化や認知症の発症・重度化、疾病等で参加したくても参加できない住民への支援が課題です。

② ミニデイサービスやサロン活動などの形態が多様化し、個人宅での有資格者による運営や開催頻度の多いサロン活動などが発足するなど、頻繁で専門的知識と技術による介護予防を図るサロン活動への期待が高まっています。一方で有資格者や経験豊富な担い手の不足が課題です。

③ 認知症の発症や重度化した住民は家にこもりがちで、近隣住民でも発見と把握の難しさがあり、地域住民や住民活動との関係づくりときっかけづくりなどを通じた、**認知症高齢者の早期発見**が課題です。

④ 個別支援活動においては、有償・無償いずれの場合も長所と短所があります。**支援活動の内容、頻度、時間の長短、活動資金や人材の確保の観点などを踏まえた、有償・無償の個別支援活動のあり方**が課題です。

(2) 孤立させないための支援

① 困りごとを発信しない・できない、危機感を感じていないなど孤立している住民などが抱える生活問題の発見と把握の難しさ、接点づくりや信頼関係づくりの難しさ、集いの場などへの移動（送迎）支援を求める声が増えており、**住民の手による個々の生活問題への丁寧な個別支援活動**が課題です。

② 個別支援活動を進める上で、生活問題を抱える住民を“支援を受ける人”と捉えるだけでなく、その人の強みを活かした地域の中での役割づくりも支援することが課題です。

(3) 地域福祉活動の拠点

① 会議や打ち合わせ、学習会やサロン活動などが開催できる場所、常設の相談窓口対応や情報発信、事務所機能などを備えた拠点が求められています。

一方で、維持管理に必要な費用、運営・管理に関する手続きなどの専門知識、適当な物件の発掘などが難しく、**小地域福祉活動^(※1)のための専用拠点の確保**が課題です。

(※1) 小地域福祉活動：地縁を基礎にあいさつ圏域、町内会・自治会活動圏域、小地域福祉活動推進組織設置圏域など、町域よりも小さな圏域で実施する住民主体の福祉活動

② 子どもから高齢者や障害者まで誰もが身近なところでいつでも立ち寄れて、出会いと交流のある毎日型の集える場が求められています。

一方で、既存の会館の利活用の不便さを解消するとともに、会場までの移動手段、担い手、運営資金の確保などを通して、**毎日又は頻繁に集える場づくりを進める**ことが課題です。

③ 会館等への利便性が悪い地域では、個人宅を会場にしたサロン活動が始まっています。

一方で、個人宅活用による会場提供者の準備や片付け等の負担、活動経費の負担など、**個人宅活用のあり方**が課題です。

(4) 地域福祉のネットワークづくり

① 住民活動の公私協働のあり方

ア 公的サービスでは利用を拒む住民との接点づくりは難しく、身近な住民活動による支援が期待されています。

一方で、地域住民などは生活問題を抱える地域住民を発見した際の対応や関わり方に戸惑いを感じており、**公私協働のあり方**が課題です。

イ 生活問題を抱えた地域住民を発見した際の適切な相談先やつなぎ先、公的な各種相談窓口の役割や機能が分かりづらいなど、**情報共有の難しさ**が課題です。

ウ 個人情報の保護を危惧するあまり、支援が必要な住民の情報を抱え込んでしまい個別支援活動に結び付けづらいなど、**個人情報保護に対する過剰反応**が課題です。

エ 地域住民が抱える生活問題に対して、専門職や行政、住民（活動）の公私の視点の違い、医療・福祉・教育・就労支援など専門分野による視点や問題意識の違いなど、**公私間や職種間などで共通した目標づくりや合意づくりの難しさ**が課題です。

② 窓口やサービス・活動内容の周知状況

ア 各種ある相談窓口や住民活動、制度・施策などに関する情報が十分に住民、関係者・団体や専門機関などに行き届いておらず、知られていないなど、**各種支援窓口やサービス・活動内容の周知不足**が課題です。

③ 民生委員・児童委員の支援へのかかわり方

ア 民生委員・児童委員は、担当地区の全世帯を把握することの難しさや、把握した生活問題や個人情報の取り扱い、緊急対応への難しさなどの問題を抱えています。

一方で各町内会・自治会やボランティアなども民生委員・児童委員活動とのかかわり方に戸惑いがあるなど、**民生委員・児童委員と住民活動などの協働のあり方**が課題です。

イ 公的機関・専門機関などが開所していない平日の夜間・土日・祝祭日の緊急対応を要する相談への対応の難しさなど、**関係者・機関などが24時間対応・連携できる体制が整備されていない**ことが課題です。

④ 近隣市との連携

葉山町内の限られた社会資源では必要な支援を充足できておらず、特に医療受診や障害者支援では近隣市行政や病院・事業所などとの連携が欠かせません。また、町境の生活圏域では近隣市行政の制度やサービスとの混在あるいは相違など、**近隣市との連携**が課題です。